

令和3年3月19日

茨城県立図書館長 山田 順一 殿

茨城県図書館協議会委員長 池内 淳

図書館における県民交流の在り方について

平成31年3月31日付けで、当協議会が「まちづくり・ひとづくりの拠点としての図書館運営について」の中で提言したように、県民が「まちづくり」を担う一員となり、主体となって地域課題に取り組めるためには、茨城県立図書館は、そのまちづくり活動を支援する図書館としての運営に努め、県民が知識や能力を得ることを支援することが求められている。

さらに茨城県立図書館が、県民が地域に関する資料や情報を収集した上で、県民相互のつながりを促進する「まちづくりの拠点」となるため、館内にカフェスペースを設置することを契機として、県民交流の在り方を検討する必要がある。

また、令和2年9月に第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理がまとめられている。その中で、子供・若者が地域の課題解決に主体的に関わることは、主権者意識の涵養にも資するものであり、よりよい社会を創っていく資質・能力を育む上で重要であると提言されている。

こうした中、茨城県立図書館の果たすべき役割を検討するにあたり、入館者数が減少傾向にある中、県民にとっていかに魅力ある施設としていくべきかを検討することが重要である。

一方で、新型コロナウイルスをはじめとした感染症対策について、県民が安心して来

館できるような取組も、併せて行っていく必要がある。

こうした様々な課題に向けて、茨城県立図書館として目指すべき方向性について検討するため、当協議会では令和元年度、令和2年度の2年間にわたり、「図書館における県民交流の在り方について」をテーマとして協議してきた。

ここに協議結果をまとめ、以下のとおり建議する。茨城県立図書館におかれては、建議の内容に積極的に取り組まれるよう期待するものである。

1 茨城県立図書館の現状と課題

(1) 県民交流事業について

(ア) 令和元年度の事業実績

(1) 読書活動推進事業											
事業名	内 容										
いばらき読書フェスティバル 2019 (平成11年度～) ※ S42～ 茨城県図書館大会 S48～ 茨城県読書振興大会 として実施	11月3日(日)	県立図書館									
	・読書功労者感謝状贈呈 ・読書感想文コンクール入賞者表彰 ・全国大学ビブリオバトル2019「茨城決戦大会」										
	・記念講演会 「小説の中の日本の近代-夏目漱石「門」と村上春樹「スパン」の会話の効果」 講師：元茨城大学教授、NHKカルチャー講師 村井 和子 氏										
	・本のお医者さん、クイズラリー、おはなし会、野外コンサート、 親子楽しもう秋のクラフト、古本フリーマーケット、まちの保健室ほか										
子ども読書フェスティバル (平成13年度～) ※ H10～ こどもの読書週間記念 フェスティバルとして実施	5月5日(日)	県立図書館及びロータリー付近									
子どもわくわく劇場、子ども向け映画上映、本のお医者さん、クイズラリー、 プチ司書体験、親子で作ろうクラフト教室、おはなし会、古本フリーマーケット、 まちの保健室ほか											
県立図書館で見て！ふれて！ 調べて！いきもの博士 (平成24年度～)	8月3日(土)	「ホテル」(18人)									
	12月14日(土)	「ペンギン」(68人)									
	※ DVD上映、講師による解説・体験活動、図書館職員によるブックトーク										
事業名	内 容										
茨城県読書をすすめる県民のつ どい (平成12年度～)	6月30日(土)	県立図書館									
読書団体実践事例発表会、記念講演会(講師：古河文学館)											
読み聞かせ フェスティ バル(平成 14年度～)	・朗読講座(45人)										
	9月11日(水)	守谷中央図書館	講師：澤 則子 氏								
	・お父さん・お母さんのための読み聞かせ講座(35人)										
	9月14日(土)	笠間市立笠間図書館	講師：有田 道子 氏								
	・読み聞かせのためのワークショップ(57人)										
	9月3日(火)	つくば市立中央図書館	講師：藤田 加奈子 氏								
	・読み聞かせ技法講座(76人)										
	11月28日(木)	坂東市立岩井図書館	講師：澤 則子 氏								
	・一瞬で心をつかむ読み聞かせ(34人)										
	9月6日(金)	常陸太田市立図書館	講師：石森 礼子 氏								
・読み聞かせスキルアップ講座(36人)											
		10月23日(金)～24日(土)	県立図書館	講師：大畑 美智子 氏							

(2) 普及啓発事業	
事業名	内 容
手づくり絵本教室 (平成14年度～)	7月6日(土) 絵本づくりの基礎・ミニテキスト制作(52人)
	7月20日(土) 表紙制作, 本文製本(48人)
	7月27日(土) 表紙製本, 完成(52人)
ライブラリーシアター (平成13年度～)	4月17日(水) スペースカウボーイ(90人)
	5月5日(日) 大決戦!超ウルトラ8兄弟(89人)
	5月15日(水) 逃亡者(116人)
	6月19日(水) オーシャンズ11(128人)
	7月28日(日) グーニーズ(60人)
	8月21日(水) ブタのいた教室(70人)
	8月24日(土) ハリー・ポッターと秘密の部屋(80人)
	9月18日(水) ケアニン～あなたでよかった～(100人)
	10月16日(水) 若者のすべて(100人)
	11月10日(日) ハリー・ポッターとアズカバンの囚人(78人)
	12月18日(水) 素晴らしき哉, 人生!(120人)
	12月22日(日) ハリー・ポッターと炎のゴブレット(78人)
	1月29日(水) 暗くなるまで待って(160人)
	2月19日(水) 三度目の殺人(100人)
名作を楽しむ会 (平成19年度～)	8月25日(土) 「野口 雨情」(44人)
	2月1日(土) 「与謝野晶子と山川登美子」(46人)
読書感想文書き方のコ ツ(令和元年度～)	7月14日(日) 小学1年生～4年生対象(132人)
クイズラリー (平成29年度～)	5月5日(土) 子ども又は親子, 一般対象(104人)
プチ司書体験 (平成29年度～)	5月5日(土) 小学生3～6年生対象(10人)
放送大学ライブラリー 講演会 (平成14年度～)	4月20日(土) 横山大観の父と祖父-地図製作者の系譜-(101人)
	5月18日(土) 63歳の親鸞-人生の再出発を目指して(230人)
	6月15日(土) 都市のフードデザート(食の砂漠)問題-社会的排除の拡大と低栄養高齢者の増加-(54人)
	8月17日(土) 戦前日本の探偵小説(57人)
	9月21日(土) モーターとわれわれの日常生活(44人)
	10月19日(土) 歌を自由に歌うために身に付けたいこと(47人)
	11月3日(日) 小説の中の日本の近代-夏目漱石「門」と村上春樹「スバナ」の会話の効果(78人)
	12月21日(土) ある強かな植物病原菌と我が闘争(56人)
	2月15日(土) 「無意識」の世界の不思議(154人)
	3月14日(土) 保険法と市民生活-生命保険と相続を中心に(中止)
ライブラリーセミナー (平成18年度～)	年 6 回開催 生涯学習講座及び子育てセミナー(140人)
	年 21 回開催 図書館俳句会(421人)
	年 2 回開催 茨城文芸協会講演会(46人)
	年 4 回開催 常陸万葉の会講演会(142人)
	年10 回開催 近代女流文学研究会(58人)
	年 7 回開催 いばらきおはなしの会(90人)
	年 1 回開催 茨城県詩人協会(38人)
	年 7 回開催 BOOK倶楽部三の丸(63人)
	年 15 回開催 就職支援セミナー(73人)
茨城大学生連携事業	年 11 回開催 三の丸寄席(496人)
	年 4 回開催 プラネタリウム(140人)

(3) 地域支援事業	
事業名	内 容
経営・創業無料相談 (平成21年度～)	中小企業診断士による経営相談 (年12回) 4/14, 5/12, 6/9, 7/14, 8/11, 9/8, 10/13, 11/10, 12/15, 1/12, 2/9, 3/8 (基本, 日曜日に実施)
創業・起業セミナー (平成26年度～)	創業・経営に興味のある方や起業されたい方を対象としたセミナー (年5回) 10/6(日), 10/12(土), 10/26(土), 11/3(日), 11/23(土)
まちの保健室 (平成15年度～)	看護師による健康相談 (年2回) 5/5(日), 11/3(日)
行政書士「くらしのお 困りごと」無料相談会 (平成24年度～)	行政書士による生活上の課題解決相談 (年24回) 4/12・20, 5/10・18, 6/9・22, 7/12・20, 8/9・17, 9/13・21, 10/11・19, 11/8・23, 12/13・21, 1/10・ 28, 2/14・22, 3/13・21 (金・土曜日に実施)
コーチング講座 (平成27年度～)	「日々の会話が楽になる」コーチング講座(年5回) 視聴覚ホール: 5/12 会議室: 6/2, 7/7, 8/4, 9/1 (日曜日に実施)
婚活セミナー, 無料婚 活相談室 (平成27年度～)	婚活に役立つ知識・スキルの習得や個人の諸事情に応じた婚活相談 (年10回) 相談室: 4/26, 5/24, 6/21, 7/26, 8/23, 9/27, 10/25, 11/22, 2/21, 3/27 (金曜日に実施)
図書館で学ぼう! 健 康・元気アップ講座 (平成29年度～)	水戸医療センターとの連携事業 (年2回) 5月9日, 8月9日
(4) こどもとしよしつ「今月のおすすめ本」	
実施時期	テ ー マ
4月	はる
5～6月	おかあさん おとうさんの本
7月	夏をたのしむ!
8月	自由研究・工作
9～10月	スポーツ
11月	茨城県優良図書
12月	クリスマス
1月	あたらしいとし
2月	おふる・おんせん
3月	はる

(6) 学校図書館支援事業		
事業名	内 容	
学校図書館支援事業 (平成24年度～)	支援内容	・学校図書館の環境作りに関する支援
		・図書館担当者研修会の企画
		・図書の優先的貸出
		・ボランティア等，地域人材を活用した教育活動の支援
(参考) モデル校一覧		
指定年度	学 校 名	
24・25年度 (6市町8校)	水戸市立飯富小学校，水戸市立国田小学校，水戸市立国田中学校，ひたちなか市立東石川小学校， 小美玉市立玉里中学校，つくばみらい市立豊小学校，坂東市立弓馬田小学校， 八千代町立中結城小学校	
	常陸大宮市立緒川小学校，大洗町立大洗小学校，東海村立白方小学校，鉾田市立鉾田小学校， 守谷市立守谷小学校，稲敷市立古渡小学校，結城市立上山川小学校，筑西市立養蚕小学校， 常総市立水海道小学校，常総市立五箇小学校，常総市立豊田小学校，常総市立水海道西中学校， 五霞村立五霞東小学校	
	城里町立桂小学校，大子町立大子中学校，常陸太田市立里美小中学校，土浦市立上大津西小学校， 古河市立小堤小学校，古河市立仁連小学校，桜川市立桜川中学校，境町立境第二中学校	
27・28年度 (5市村8校)	笠間市立南小学校，那珂市立菅谷西小学校，那珂市立五台小学校，那珂市立第一中学校， 潮来市立日の出小学校，潮来市立日の出中学校，美浦村立安中小学校，下妻市立宗道小学校	
	茨城町立青葉小学校，牛久市立牛久第二小学校，牛久市立牛久第三中学校，利根町立文小学校	
29・30年度 (6市町6校)	日立市立河原子小学校，高萩市立高萩小学校，北茨城市立精華小学校， 行方市立玉造中学校，取手市立取手西小学校，阿見町立本郷小学校	
	鹿嶋市立高松小学校，神栖市立太田小学校，石岡市立府中小学校，龍ヶ崎市立城ノ内小学校 つくば市立荃崎第一小学校，かすみがうら市立霞ヶ浦中学校，かすみがうら市立下稲吉中学校 河内町立かわち学園	

(イ) 課題

茨城県立図書館では、県民交流の取組として、子どもたちが茨城県立図書館に親しめるよう、プチ司書体験や図書館探検ツアー等を盛り込んだ「子ども読書フェスティバル」を5月に実施したり、県民全般を対象としたクイズラリーやおはなし会などの「いばらき読書フェスティバル」を11月に実施するなど、普及事業を展開しているが、参加者が楽しく学べるプログラムが不足しており、例年同じような事業を実施している。

今後は、県民交流が単なるイベントではなく、図書館運営事業の柱の一つとなるよう検討していく必要がある。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う図書館運営について

令和2年以降、新型コロナウイルスの感染が拡大している中、茨城県立図書館をはじめ、県内の多くの図書館が休館となった。

茨城県立図書館では、職員のマスクの着用、消毒液の設置、椅子や机の間引きや撤去、飛沫感染防止のため受付カウンターにビニールシートの設置のほか、サーマルカメラによる検温を実施しており、また来館者に対しても、マスクの着用や長時間の利用の制限のほか、視聴覚機器の一部利用制限を依頼するなど、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めている。

新型コロナウイルス感染拡大がいつ収束の方向に向かうのか、現段階では見通せない中、日本図書館協会が作成した「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を踏まえ、引き続き感染症対策を実施していく必要がある。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う休館期間中、電子図書館の利用者が飛躍的に伸びたというケースが多く見られた。県内の市町村立図書館に

においても、電子図書館の導入を進めているところもあり、図書館までの移動に困難を要する高齢者や、電子書籍になじみのある利用者からのニーズは高いと考えられる。

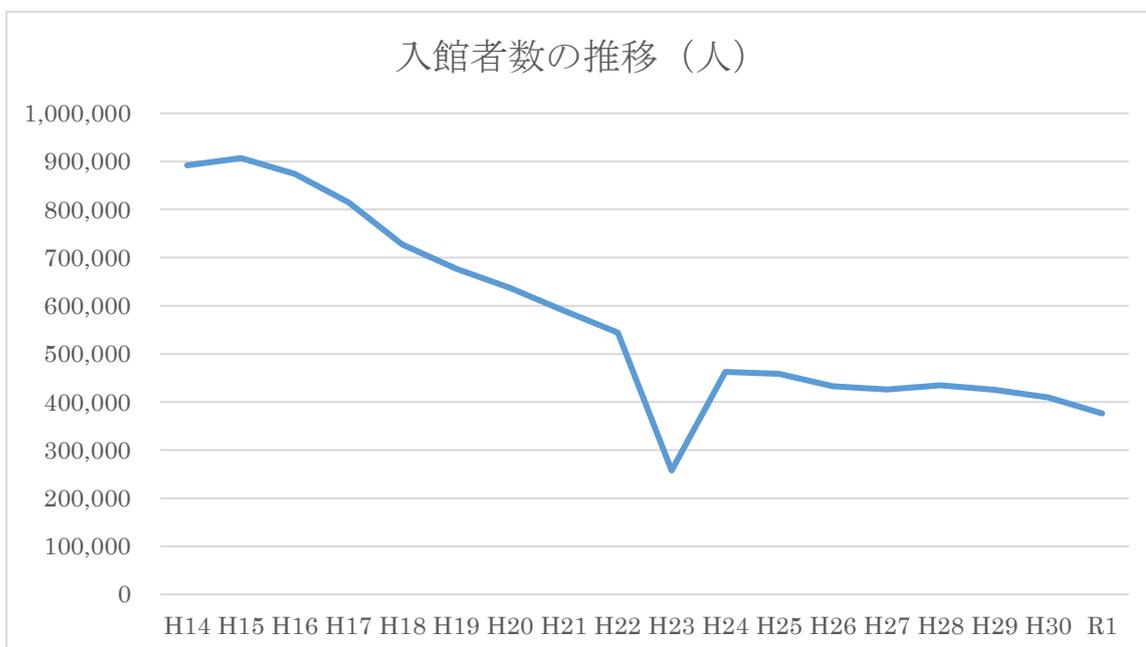
一方で、導入に要する費用が高く、またコンテンツ数が少ないことや使用期限があるなどのデメリットも指摘されており、導入のメリット・デメリットを十分検証する必要がある。

(3) 入館者数及び貸出点数について

(ア) 入館者数の推移

平成13年3月に移転開館し、令和3年3月24日に移転開館20年となる茨城県立図書館の入館者数の推移を見ると、平成15年度の906,935人をピークとし、令和元年度は375,982人となり、58.5%の減となっている。

(図1) 移転開館以降の入館者数の推移



※平成23年度の入館者数の大幅減は、東日本大震災により被災したため約半年間休館したことによるものである。

(表1) 年度別入館者数

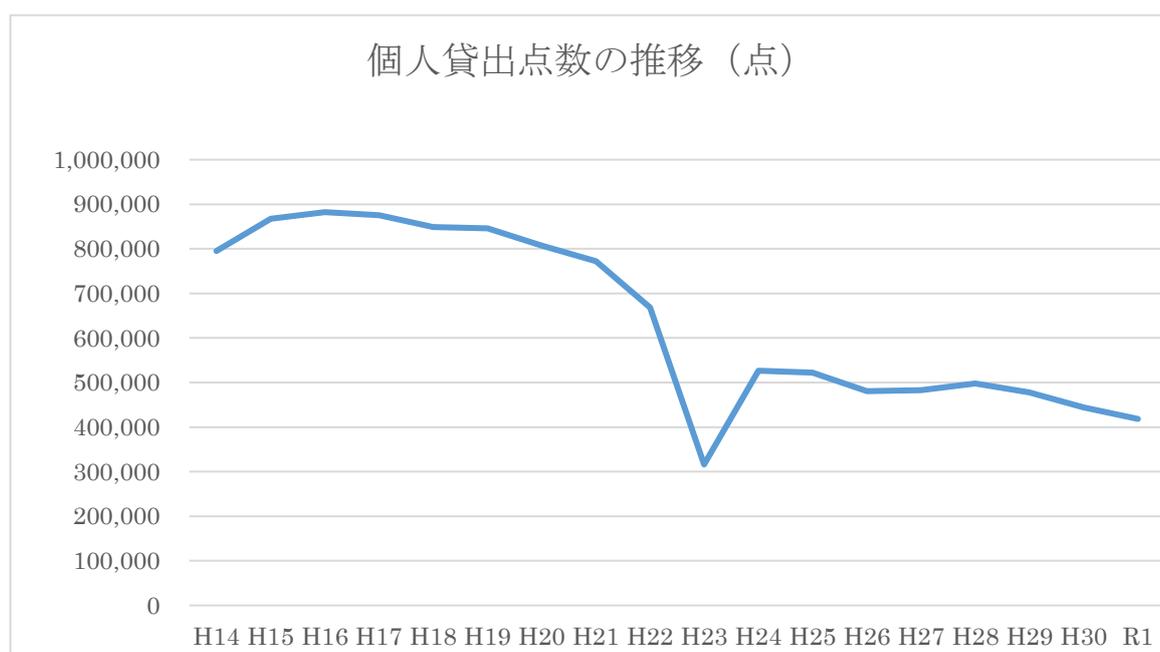
(単位:人)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
入館者数	891,727	906,935	873,736	814,635	727,517	676,657	637,116	590,037	543,990
年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
入館者数	257,574	462,593	458,414	432,536	426,341	434,908	425,604	409,144	375,982

(イ) 貸出点数の推移

次に貸出点数の推移を見ると、個人貸出点数のピークは、平成16年度の882,319点であり、令和元年度は418,157点となり、52.6%の減となっている。

(図2) 移転開館以降の個人貸出点数の推移



※平成23年度の個人貸出点数の大幅減は、東日本大震災により被災したため約半年間休館したことによるものである。

(表2) 年度別個人貸出点数

(単位:点)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
貸出点数	795,438	867,433	882,319	875,369	848,737	846,172	807,199	771,879	668,192
年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
貸出点数	316,173	526,302	522,256	480,391	483,047	497,854	477,580	443,831	418,157

(ウ) 入館者数び貸出点数の減少理由

入館者数や貸出点数が減少した原因としては、当協議会が平成29年3月31日に提言した「茨城県立図書館としての資料収集について」の中で触れたように、図書購入費の減によって、ベストセラー等の一般書から調査研究用の専門書に蔵書構成の比重が移ったことや、近隣市町村における図書館数の増加、さらには情報通信ネットワークの普及により、手軽に（誰もが、知りたい）情報を入手できるようになったことが考えられる。

(4) 団体貸出用図書について

(表3) 図書館資料整備費の推移

(単位:千円)

年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
総 額 (当初)	200,248	239,636	158,256	188,751	160,781	159,800	169,416	172,497	222,664	272,259
うち団 体貸出 用図書	33	23,826	17	18	18	18	18	18	18	18

(表4) 団体貸出図書の利用団体数及び貸出冊数の推移

区 分		H27	H28	H29	H30	R1
団体用	利用団体数 (団体)	85	68	74	84	50
	貸出冊数 (冊)	48,963	35,986	39,675	37,050	25,595
読書会用	利用団体数 (団体)	64	84	89	68	62
	貸出冊数 (冊)	550	575	947	620	523
計	利用団体数 (団体)	149	152	163	152	112
	貸出冊数 (冊)	49,513	36,561	40,622	37,670	26,118

子どもたちの読書離れが進んでいる中、茨城県立図書館のファンを増やしていく上で、子どもたちに本に親しむ習慣を身に付けさせることは重要である。

茨城県立図書館では、子どもの読書活動の推進を図るため、一般図書や児童図書、絵本などの団体貸出用図書を整備し、希望する学校への貸出を行っているところである。

団体貸出用図書については、平成 24 年度に国の「住民生活に光をそそぐ交付金」により予算が増額されたが、その後は図書の購入が進まず、新学習指導要領が改定された中で学校の授業で利用する上での資料的価値がなくなりつつあることから、団体貸出用図書の充実を図る必要がある。

また、学校教育において、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、学校図書館の充実は不可欠である。

一方で、文部科学省が平成 28 年度に実施した「学校図書館の現状に関する調査」によると、学校の学級数に応じた蔵書の整備目標である「学校図書館図書標準」の達成率は、本県小学校は 65.7%（全国は 66.4%）、本県中学校は 54.5%（全国は 55.3%）であり、全国平均を下回っている状況にある。

こうした背景には、学校図書館に整備する図書購入予算の拡充が図れないなど県内各自治体が厳しい財政状況にあることが考えられる。

学校図書館の充実を図るためには、子どもたちにいかにして学校図書館を利用してもらおうかについて、関係機関が連携しながら学校図書館の活用について検討する必要がある。

2 他県の市立図書館における、カフェ整備後の県民交流に係る先進事例について

茨城県立図書館では、県民の交流空間を創出するため、1階エントランスホールに、県民が読書しながら飲み物や飲食を楽しめるようカフェを整備する予定である。

については、他の都道府県立図書館において県民交流を軸としたカフェ運営をしている例がないため、市立図書館ではあるが、他県で既にカフェを設置している大和市長図書館（神奈川県）と武雄市図書館（佐賀県）を茨城県立図書館職員が視察した結果について紹介する。

（1）大和市長図書館（令和元年5月29日視察）

（ア）施設・運営上の特色

- ・図書館とカフェ、芸術文化ホール、生涯学習センター等の複合施設ではあるが、図書館がメインの施設。
- ・書架は全ての階にあり、それぞれの階に自動貸出機が設置。
- ・図書館内のどこに本を持って行っても自由（講座室や演奏ホール、カフェ内に貸出前の本の持ち込み可能。）。
- ・飲み物や多少のおしゃべりは認めている。
- ・複合施設のため予想以上に利用者が多く、賑わっていた。来館者数は1日平均9,000人、土日は13,000人。
- ・話し声は聞こえるが、ゾーニングをして、有料で静かに勉強ができる区画もある。低料金のため、平日であってもほぼ満席の状態。高校生も利用していた。

（イ）カフェ事業者との連携内容

- ・コーヒーの本を展示。
- ・コーヒーの講座を開き、店長に講師を依頼した。

- ・図書館2周年の際は、2周年記念店舗オリジナルトッピングを提供した。

(ウ) 課題

- ・予想以上に利用者が多く、賑わっていた。人の動きが多く、また会話による音もうるさく感じた。吹抜のため、1階にあるカフェでの話し声も2階あたりまで聞こえてくる。
- ・飲み物や多少のおしゃべりは認めており、それについてのクレームは少なからずあるが、そのような施設であることを説明している。
- ・2年間で館内の本を飲食で汚されたことは数件程度。弁償で処理した。

(2) 武雄市立図書館（令和元年11月15日視察）

(ア) 施設・運営上の特色

- ・館内を図書ゾーンと蔦屋書店の販売ゾーンに分けているが、区域の間に間仕切りはない。
- ・利用者が貸出用の資料を購入したい場合は、蔦屋書店で取り寄せ可能。また販売されている資料を借りたい場合は、図書館で貸出用資料を提供できる。
- ・カフェスペースだけでなく館内の閲覧スペース等でも飲食や会話を認めているが、静かな空間で読書や学習をしたい方のため、特定の場所での飲食等を禁止し、静かな空間も確保している。また飲食スペースには音楽を流すことで、会話しやすい雰囲気を醸し出している。
- ・セルフカウンターに自動貸出機を2台設置しており、利用者自身による貸出手続きを可能としている（セルフカウンター利用率は9割超。）。
- ・館内には、複数のデジタルサイネージ（電子看板）を設置し、図書館の利用案内やイベント情報を掲出。壁や書棚にポスターを掲示しないため、すっきりした印象。

- ・入館者数はリニューアル前と比較し、約4倍に増加。また貸出冊数も大きく増加している。
- ・カフェを設置する前の利用者の図書館滞在時間は1時間未満が多かったが、設置後は平均3時間程度となっている。
- ・図書館が観光名所として注目され、武雄市の知名度向上及び観光客増加につながり、武雄市の活性化に貢献している。

(イ) 蔦屋書店やカフェ事業者との連携内容

- ・館内では蔦屋商品の販売も行い、図書・雑誌のカフェスペースへの持ち込みも認めている。
- ・文房具や武雄市の特産物等の販売。
- ・季節イベントとして、カフェを活用したバリスタ講座やパンケーキ教室、体験型ワークショップなどを開催。
- ・武雄市の特産品を集めたマルシェ等も毎月1回開催。
- ・一般的に図書館では日本十進分類法に基づき図書を分類・配架しているが、特定の分野（料理・旅行・人文など）について蔦屋書店のノウハウを活用し、利用者が目的の図書を探しやすい配置としている。

(ウ) 課題

- ・飲食しながら図書館資料を閲覧している際に資料を汚損した事例はないが、机上に付着していた水滴の上に資料を置いてしまい、資料が濡れてしまった例はある。その際は弁償は求めず、次回から気をつけるよう伝えている。
- ・図書館の運営において指定管理者制度を導入しているが、運営を受託している事業者とカフェを営業している事業者が同一であることから、図書館運営とカフェのコンセプトについての共通理解が十分に図られており、県民交流にあたっての課題は特段見られなかった。

3 「茨城県立図書館における県民交流の在り方について」への提言

茨城県立図書館は、まちづくり活動を支援する図書館としての運営に努め、県民が知識や能力を得ることを支援することが求められている。

そのため、茨城県立図書館の魅力向上させる方策について、以下建議したい。

(1) カフェ整備後の県民交流の推進に向けた方策

- ・ 令和3年度中に、茨城県立図書館内にカフェがオープン予定であり、カフェの整備を契機として県民に親しまれる図書館となるため、県民交流の推進に向けて、例えば参加型のコーヒー講座の開催など、どのような方策が考えられるか、カフェ運営者と連携を図りながら協議を進めること。
- ・ カフェ運営者との協議にあたっては、図書館の機能が縮小することのないよう、県民の目線に立って検討を進めること。
- ・ 茨城県立図書館が県民交流に向けての取組を検討する際、図書館と県民とのコーディネーターとしての役割を担う司書の活用を図ること。
- ・ 茨城県立図書館と、県民交流を支える生涯学習団体等が連携し、県民が興味を持って参加できる図書館イベントを検討すること。

(2) デジタル社会対応型図書館に向けた方策

- ・ 茨城県立図書館に関するイベント等の情報発信について、SNS（Twitter、Facebook等）を活用して迅速で効果的な広報に努めること。また、カフェの先進事例である他県図書館が導入していたデジタルサイネージ(電子看板)を複数設置し、図書館の利用案内やイベント情報の掲出を検討すること。
- ・ 県民が近隣の市町村立図書館等で県立図書館資料を貸出および返却できるよう、資料を搬送するシステムおよびインターネット予約を活用した遠隔地貸出サービス(ぶっくびん)が令和2年2月に開始されたところであるが、県民の利便性向上の

ため、参加図書館の拡充に努めること。

- ・ 電子書籍については、既に導入している県内外の図書館が抱える課題を検証し、導入の可否も含めて引き続き検討を進めること。

(3) 新型コロナウイルス感染防止のための方策

- ・ 茨城県立図書館内での新型コロナウイルスの感染防止に努め、来館者が安心して図書館を利用できるよう、引き続き同様の感染防止対策を講じること。

(4) 茨城県立図書館の利用促進を図るための方策

- ・ 入館者数が減少傾向にある茨城県立図書館の魅力向上のため、関係機関と連携して茨城県立図書館の所蔵する資料を有効に活用できる方策を検討すること。例えば、本県を舞台にしたアニメやドラマなどのコンテンツにちなんだ資料を購入・展示することにより、コンテンツに興味を持つ利用者を取り込むなど、本県の魅力発見につながる施策を検討すること。
- ・ これまで県立図書館が重点的に購入してきた、専門的・学術的な資料等は引き続き購入しつつ、利用者のニーズに応じた選書についても検討すること。

(5) 子どもたちの読書活動の推進に向けた方策

- ・ 団体貸出用図書への更新に向けての予算を確保し、学校のニーズに応じた図書の整備を推進すること。
- ・ 子どもたちにとって魅力ある学校図書館となるよう、茨城県立図書館は、保護者やボランティアなど地域人材を活用して学校図書館の整備を進めるノウハウなど、参考となる先行事例について各学校への情報提供を検討すること。